

## 5. 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要

## 5. 両生類・爬虫類・哺乳類調査結果の概要

### (1) 分布状況から見た河川環境の特徴 (資料 II.5.1)

今回とりまとめを行った 20 水系 20 河川で確認された両生類は 2 目 7 科 19 種、爬虫類は 2 目 7 科 15 種、哺乳類は 7 目 16 科 41 種でした。それぞれの確認種数が多かった河川は、両生類では東北地方の北上川の 14 種、爬虫類では中部地方の豊川の 12 種、哺乳類では東北地方の北上川と北陸地方の阿賀野川の 17 種等でした。

### (2) 特定種一覧 (資料 II.5.2)

今回とりまとめを行った 20 河川で確認された特定種は、両生類が 1 種、爬虫類が 1 種、哺乳類が 2 種でした。レッドデータブックの準絶滅危惧種と国の天然記念物に指定されているオオサンショウウオが近畿地方の揖保川で見つかりました。

確認種数が多かった河川は、近畿地方の揖保川が 2 種と最も多く、20 河川のうちの 9 河川では、何らかの特定種が確認されていました。

#### (注) 特定種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- ・ 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種及び緊急指定種
- ・ 環境省(庁)編「レッドリスト」掲載種(1997)
- ・ 環境省(庁)編「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—」掲載種(2000)

### (3) 外来種一覧 (資料 II.5.3)

今回とりまとめを行った 20 河川で確認された外来種は、両生類が 1 種、爬虫類は 1 種、哺乳類が 6 種でした。最も多くの河川で見ついている外来種は、両生類のウシガエルで 17 河川、次いで、爬虫類のミシシippアカミミガメが 12 河川、哺乳類のハツカネズミが 11 河川の順になっていました。また、最も多くの外来種が確認された河川は、関東地方の利根川のほか、中部地方の豊川、近畿地方の加古川、中国地方の芦田川で 5 種類の外来種が確認されており、逆に外来種が全く確認されなかった河川は、北海道地方の猪滑川のみでした。

#### (注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、外来種の選定には、資料 I. 5(44~45 ページ)に掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。

### (4) カエル類の確認状況 (資料 II.5.4)

確認状況の概要は、12~13 ページに、また出現状況は 132 ページの表に掲載されています。

### (5) ヤマカガシ、シマヘビ、アオダイショウの確認された地域 (資料 II.5.5 (1-3))

確認状況の概要は 13 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 133~135 ページに

掲載されています。

(6) ミシシippアカミミガメと在来イシガメ類の確認された地域 (資料 II.5.5 (4-6))

確認状況の概要は 21 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 136～138 ページに掲載されています。

(7) ウシガエルとヌートリアの確認された地域 (資料 II.5.5 (7/8))

確認状況の概要は 22 ページに、また、これら選定種の確認位置図は 139～140 ページに掲載されています。

(8) ヤマカガシ、シマヘビ、アオダイショウ、ミシシippアカミミガメ、イシガメ、クサガメ、ウシガエル、ヌートリアの確認状況の経年比較 (資料 II.5.6)

確認状況の概要は、13、21～22 ページに、これら選定項目の河川ごとの経年確認状況についての比較表は 141 ページに掲載されています。